

武蔵大学、並びに大学院研究科へご入学の皆さん、入学おめでとうございます。

コロナ感染症のパンデミックという非日常であった困難な日々を過ごした時期を乗り越え、勉学に励み、努力を続けた甲斐があって、この伝統ある武蔵大学に入学された皆さんに心からお祝いの言葉を贈ります。また、このように優れたお子様を育てられた保護者の方々にも心よりお祝いを申し上げます。

高橋学長も先ほどの式辞で触れられましたが、私からも武蔵大学の創立に至る経緯、教育理念について少し述べさせていただきます。

武蔵学園の創始者である初代根津嘉一郎は、鉄道王と呼ばれた実業家でしたが、その語録に『社会から得た利益は社会に還元する義務がある』、『国家の繁栄は育英の道に淵源する』があります。1909年に渋沢栄一を団長とする渡米実業団の一員として、根津は4ヶ月にわたってアメリカの53の都市を歴訪しましたが、その際にロックフェラーを始めとする米国の著名な財界人が巨額の私財を投じて公共事業に尽力している姿に触れ、育英事業への志を深くしたのです。訪米中ハーバード大学、イエール大学、カリフォルニア大学を始めとする13の主要な大学を訪れたとの記録が残されています。

帰国後、当時、日本の教育界の重鎮であり、教育会議の改革派メンバーであった一木喜徳郎、山川健次郎などと相談。私財360万円を投じて、財団法人根津育英会を設立し、1922年に旧制七年制武蔵高等学校を開校したのです。因みにこの額を現在の貨幣価値に換算すると実に974億円になるそうです。この間の経過については、武蔵学園記念室に保管されている「根津翁伝」に詳しく述べられていますので、一度記念室を訪れて下さい。

第二次世界大戦終了後、我が国は教育制度改革を余儀なくされ、教育基本法の制定に伴い、旧制七年制高等学校は廃止され、義務教育として小学校・中学校の9年間、その上に高等学校、更に大学が置かれる現在の形の学校制度が出来上がりました。旧制武蔵高等学校は新制武蔵中学・高等学校となり、1949年に経済学部単学部として武蔵大学が創立されたのです。以後、1969年に人文学部が、1998年に社会学部が開設され、2022年には新たに国際教養学部が作られ、4学部からなる武蔵大学となりました。

高橋学長も述べられましたが、武蔵学園は、建学以来、三つの理想を掲げて教育を行っています。繰り返して紹介いたします。

建学の三理想とは、

- 一、東西文化融合の我が民族理想を遂行し得べき人物
 - 二、世界に雄飛するにたえる人物
 - 三、自ら調べ自ら考える力のある人物
- を育成する事です。

この教育理念は作られてから実に100年余の年月が経つのですが、全く色褪せることなく、むしろ、急激に国際化が進みグローバル化が叫ばれている現代において一層重要さ

を増している極めて適切な教育理念であり、改めて本学の先駆者に深い敬意を表するものです。そして、この理念に基づいた教育が今日に至るまで連綿と行われ、多くのグローバル人材を輩出してきた事は武蔵学園の大きな誇りです。

国際化が進む21世紀の大学教育においては文系、理系といわれた専門教育の体系だけにこだわらず、文理の壁を越えた新たな学問体系を再構築する必要がある、文系と言われた学問領域においても数学や科学の考え方を身につけることが当たり前のことになってきています。武蔵学園が建学以来大切にしてきた「リベラルアーツ&サイエンス教育」を強化する為に、新たに開設されたのが「リベラルアーツ&サイエンス教育センター」です。また、DX化が急速に進行しており、デジタル化に対応し、ビッグデータを正しく分析、賢く応用する能力を持つ人材育成の必要性が増しており、データサイエンス教育への全学的な取り組みが進んでいます。皆さんには優れた観察力、科学的なものの見方を身につけ、創造性豊かな議論ができる人物になって貰いたいと思っています。

福澤諭吉は「学問のすすめ」の中で、学問の本質は、できあがった知識を単に学ぶ事ではなく、新しい知識を作り出して行く精神・身体の活動であり、まだ知られていない物、未知なる物への問いであり、その答えを求める過程こそが学問であり、人がそれぞれの社会的役割を果たすための「術」が学問であると述べています。

経済協力開発機構（OECD）では3年毎に15歳を対象に学習到達度調査を実施していますが、2022年に行われた数学的、科学的リテラシー、読解力などを対象とした調査では、日本はOECD加盟38ヶ国中いずれも1位、2位であり、我が国の高校生の学力はこの3分野で世界トップレベルでした。一方、大学一年生の勉強時間を日米で比較した調査結果によると、残念なことに日本の大学生の予習・復習に使う時間は米国の学生のそれと比べて、圧倒的に少ないことがわかりました。

皆さんには、「自ら調べ、自ら考える力」を身につける為に学びを止める事なく、自分が興味を持つ学問領域を更に深く学び、新たな気づきを感じる事の楽しさを十二分に味わって欲しいのです。

これからの皆さんの大学生活で大切なことは、「大学で何を学んだか？何を身につけたか？」という「学習歴」なのです。単なる学歴は意味が無いのです。

現在、我が国は少子高齢化という深刻な問題に直面しています。社会の生産活動を中心になって支える15-64歳の人口を「生産年齢人口」と呼びますが、この年齢層は、労働の中核的な担い手として、経済に活力を生み出す一方、社会保障を支える存在ですが、2023年の生産年齢人口はピーク時と比べて1300万人以上減少し、総人口に占める割合も約60%にまで低下しており、今後もさらに減少する見通しです。65歳以上の高齢者人口が拡大する一方、若年者人口が大きく減少する為です。

急速に進む少子化は高等教育にも暗い影を落としています。文部科学省による大学進学者数の推計によると、2021年に62,7万人だったのが2040年には46万人になると言われています。我が国の研究力は低下しており、待ったなしで高等教育システムの再構築の必

要性が叫ばれているのです。教育研究の質を上げ、学生一人一人の能力を最大限に高め、持続可能な活力ある社会の担い手として課題解決ができる人材を社会に送り出す事が大学に求められています。

武蔵大学では、初年度から行っているゼミ教育を基盤に、教養教育、専門教育を一層充実させる事は勿論、グローバルリーダーとしての資質を磨く教育プログラムを準備しています。皆さんはそれに応えて、「世界に雄飛」して、活躍する人材になるよう学習に励んでください。

武蔵野の面影を残す、自然豊かなこの美しいキャンパスで皆さんが心身ともに健康に、学問に励み、運動部や文化クラブ活動を通じて楽しい日々を送り、掛替えのない 4 年間で過ごされる事を祈念して、私の祝辞と致します。

皆さん、ご入学おめでとうございます。

令和 7 年 4 月 2 日

学校法人根津育英会武蔵学園
学園長 池田康夫